

「お産の学級」への取り組み

—第2報—

産科・分娩部 発表者 原田 まさみ
池野 位子・和田 宣子・山口 文子・森 艶美
中嶋 まさ子・松本 あつ子・村田 和子・原田 由紀
菅 めぐみ・桜井 理恵・宮脇 真弓・竹内 崇子
尾崎 尚代・岩崎 浜子

I はじめに

近年、核家族化、妊娠や育児に関する情報の氾濫に伴い、夫・家族も参加し、妊娠・出産・育児を考えようと、昭和58年5月より「母親学級」の内容に、沐浴・家族計画を加え、土曜日に「お産の学級」を行ってきた。

しかし、夫・家族の参加は予想より少なかった。

また、当初より「時間の超過」「内容が多く、個々について十分な指導ができない」などの問題が出されている。

そこで今回、この問題の原因を探り、より良い「お産の学級」のためプログラムの変更を考えたので、ここに報告する。

II 目的

「お産の学級」の実態を探り、プログラムの変更を考える。

III 期間

昭和59年11月10日より、昭和60年5月11日まで。

IV 方法および対象

1. アンケート調査による。

1) 昭和60年3月、4月、5月のお産の学級第1週受講者。

(配布64名、回収56名、回収率87.5%)

2) 昭和60年3月、4月のお産の学級第3週受講者。

(配布31名、回収27名、回収率87.1%)

3) 昭和60年3月11日より、5月10日までの当科入院中褥婦。

(配布80名、回収71名、回収率88.8%)

4) 当科病棟スタッフ

(配布14名、回収14名、回収率100%)

2. 昭和58年5月より、昭和59年11月までの「お産の学級ノート、より、問題点を抽出した。

尚、この「お産の学級ノート、とは、各月のお産の学級担当者が、受講者名簿をつくり、各週の講義内容と所要時間、反省等を記入し次回へと申し送ってゆくノートのことである。

V 結果（資料1～4参照）

アンケートの結果、お産の学級の受講理由としては図1のごとく「妊娠・分娩について不安だから」「当院で分娩予定だから」「ラマーズ法に興味があって」受講する人が多い。

夫・家族の参加では、図2のごとく、夫の参加を希望しているが、希望してもあまり参加してくれないと思っており、実際の参加は、受講者の4.3%のみであった。

講義内容についての希望は、図3のごとく、お産の学級第1週受講者アンケートより、受講前では、「ラマーズ法」「分娩の準備」が39名、69.6%。「産後の過ごし方」が31名、55.4%。「妊婦体操」が29名、51.8%。「分娩の経過」「育児」が28名、50.0%などを知りたいが多い。お産の学級第3週受講者アンケートより、受講してからは、「育児」が19名、59.3%。「ラマーズ法」が15名、55.6%。「妊婦体操」「産後の過ごし方」が9名、33.3%などを知りたいが多くなる。当科入院中の褥婦アンケートでは、「ラマーズ法」が43名、89.4%。「乳房の手当て」「栄養」が29名、46.8%。「妊娠中の異常」が28名、45.2%などをもっと知っておいた方がよかったとしている。

また、入院中の指導で十分と思われる内容は、図4にみられるように、「産後の生理と過ごし方」「おふろの入れ方」「家族計画」であった。

お産の学級の内容について聞いてみたところ、図5、6のごとく「満足、・「ほぼ満足、している。講義についても「わかりやすい、が大部分で、「むずかしい、と答えた人はいなかった。学級の時間は、26名、96.3%の人が適当であるとしている。ラマーズ法については、全員が、ラマーズ法で積極的にお産をしたいと思っており、図7のごとく、呼吸法については、ほとんどの人が「わかる、と答えている。しかし、リラクセスについては「かんたん、12名、「むずかしい、12名と各々44.4%でした。「家で練習しているか、には、図8のごとく、74%の人が「している、と答えている。

当科病棟スタッフアンケートより、お産の学級の時間は、14時より16時まで2時間が全員適当であるとしている。が、実際に開催した全員が、時間内に終了しなかったと答えている。その理由として、「話す内容が多い」「質問が多い」「実技（妊婦体操・呼吸法・リラクセスの実際）が時間外になる」などがあがっている。

講義内容では、「ラマーズ法」「妊娠中の摂生・生活」「妊娠中の異常」「分娩の準備」「栄養」「育児」をもっと伝えたいと思っている。又、「家族計画」「産褥」「沐浴の実習」は、入院中の指導で十分であると考えている。

お産の学級で、問題だと思ったことを1人2つ書き発想法でまとめると、資料2の図のようになり、「現在のお産の学級は、週数による参加制限をしなければならなかったり、夫・家族の参加が少ない。プログラムに決められているので、必要でないかもしれないと思いながらも講義する事があるし、その内容も担当者によりちがう。この様な状況では、受講者の理解、満足度を十分に把握できぬままの学級終了につながり、私達自身が、満足した指導ができないと感じている。」となった。

また、お産の学級ノートより、抽出した問題点も発想法と同様の結果であるが、受講者数、時間超過、会場、環境についても多くの問題点があがっている。受講者数は、資料3の図9・表1のように、週平均、「母親学級」で11.3人、「お産の学級」では22.0人と増加している。これは、分娩数の29.9%から45.5%への増加である。時間の超過は、0分から105分で、各週平均29.2分であった。

VI 考察

年々、お産の学級の受講者が増えつつあるが、現在の、週平均22名という受講者数は、スタッフで行いうる十分な指導の限界ではないかと考えている。

講義の内容も豊富であるため、時間は、毎週30分超過している。しかし、時間については、受講する側も、スタッフも、講義時間は2時間で終了するのが適当であると答えている。時間超過をせずに、十分な内容の学級をいかに行うかを考えてみるため、まず現行の講義内容に目を向けた。

そこで、講義の内容そのものが多すぎ、時間超過するのではないかと、更に内容をこまかくみると、知りたい内容では、「ラマーズ法」「分娩の準備と経過」「育児」「妊娠中の異常」「栄養」があたり、目前の出産がメインとなっており、これは、スタッフの伝えたいものと一致している。又、入院中の指導で十分と思うものは、「家族計画」「産褥」「沐浴」があげられ、これも、スタッフが入院中で十分と思うものと一致する。これらのものは、分娩後の指導でよりよく吸収されると思われる。

ラマーズ法についてみると、呼吸法は、ほとんどの人がわかるようであるが、リラックスについては、むずかしいと思う人が半数あり、実技については、もっと時間をとる必要がある。更に、経産婦では、満足したお産、がしたいという指向が強い。

以上のことから、産褥入院中の指導で十分と思う内容をはぶき、ラマーズ法を充実させるよう実技の時間を多くとり、資料4、表2の「お産の学級Ⅱ」のようにプログラムを変更してみた。

指導者側としては、発想法、お産の学級ノートの中に、受講者が満足しているかわからないという不安をあげている。アンケートでみると、受講者は、ほぼ満足しているという結果が出たが、更に、私達は「受講者に満足してもらえ、スタッフが納得できるお産の学級」を目指してゆかなければならないと思う。

VII おわりに

こうして「母親学級」から「お産の学級」へ、そして、更にプログラムを変更するに至った。

沐浴・家族計画をはぶいたことで、一見、逆にもどった感じがするが、時間、スタッフの人数、会場などの限られた条件の中で、よりニーズの高いものについて内容の充実を図ったものである。

これは、山積する問題のなかの極一部に手をつけたにすぎない。今後、残された問題とともによりいっそうの努力を続けてゆきたい。

この研究に際し、御協力頂いた方々に深く感謝致します。

参考文献

1. 聖母病院保健指導部分娩部：ラマーズ法における評価 助産婦雑誌 医学書院 Vol.33 No.4 1979 4月号
2. 市川市保健センター保健婦：両親学級は父親にとって有効か 助産婦雑誌 医学書院 Vol.36 No.11 1982 11月号
3. 前隆代：母性への援助の原点 助産婦雑誌 医学書院 Vol.37 No.5 1983 5月号
4. 北村笑子他：母親学級についての検討 第12回日本看護学会集録 日本看護協会
5. 山口由美子：あなたにとって「いいお産」とは 助産婦雑誌 医学書院 Vol.37 No.1 1983

1月号

6. 田村南子：母親学級・両親学級のすすめ方 ベリネイタル・ケア メディカ出版 Vol. 2

No.4 1983 8号

資料1 アンケート結果

図1-1 お産の学級受講理由(時期別)

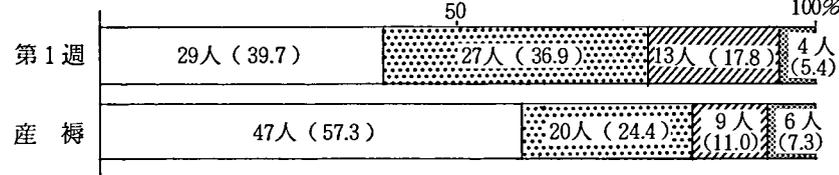
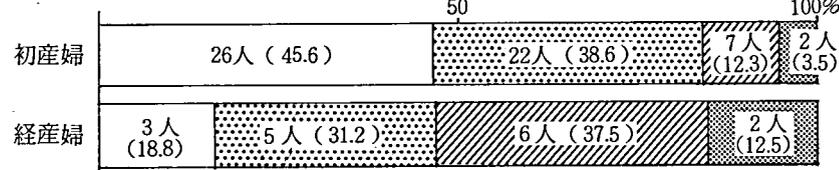


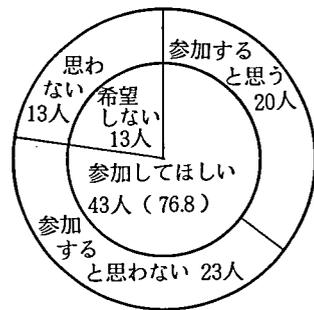
図1-2 第1週 お産の学級受講理由(初・経別)



□ 妊娠・分娩について不安 ▨ 信大で出産予定
 ▩ ラマーズ法に興味がある ■ その他

図2 お産の学級と夫・家族の参加について

2-1 第1週の結果



2-2 産褥

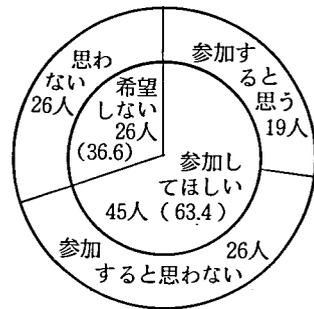


図3 妊娠中に知りたい、知っておいた方がよかったこと

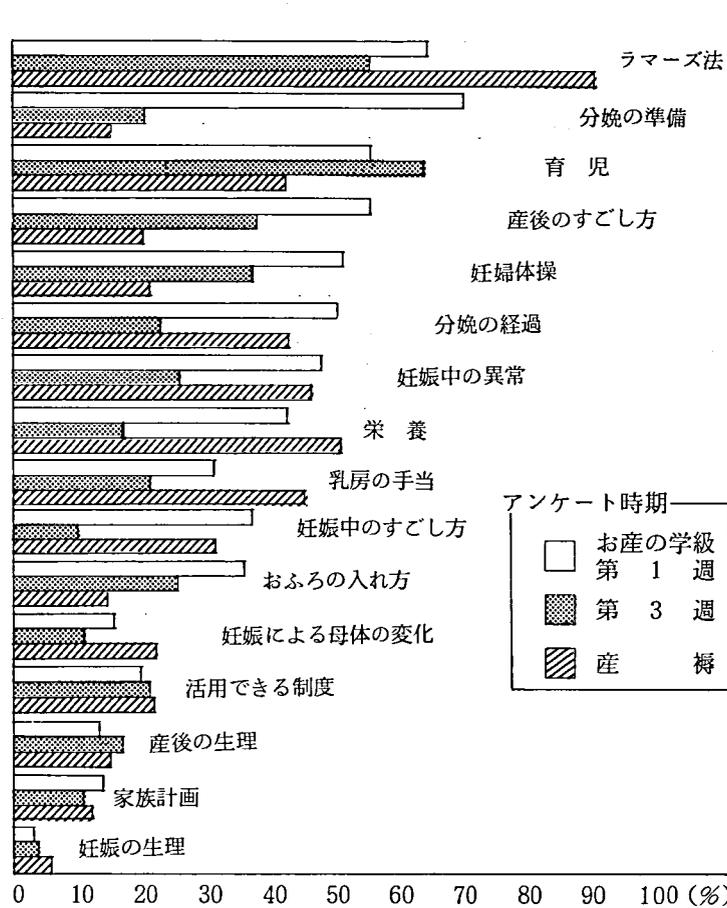


図4 お産の学級と入院中の指導と重複する内容について

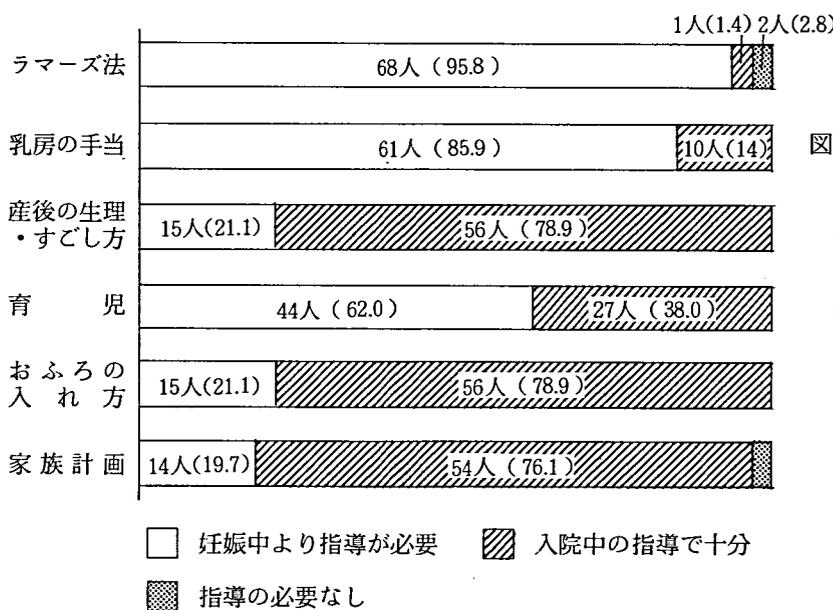


図5 お産の学級の内容について

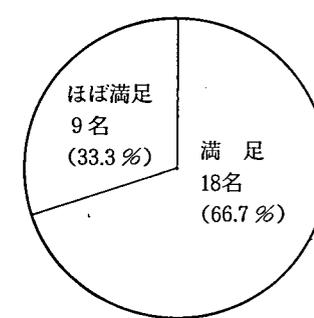


図6 お産の学級の講義について

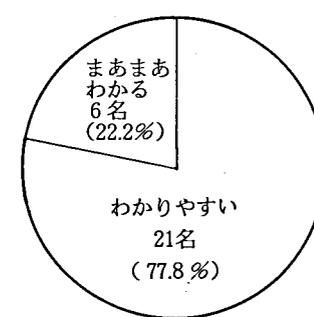


図7 実技は理解できているか

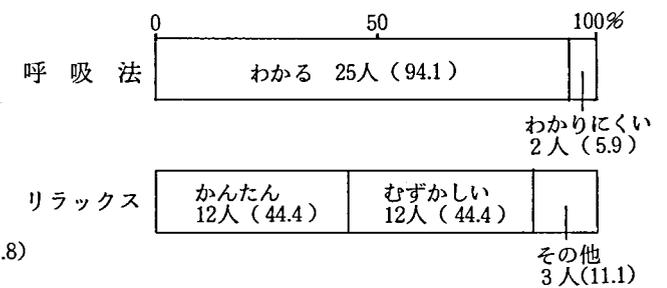
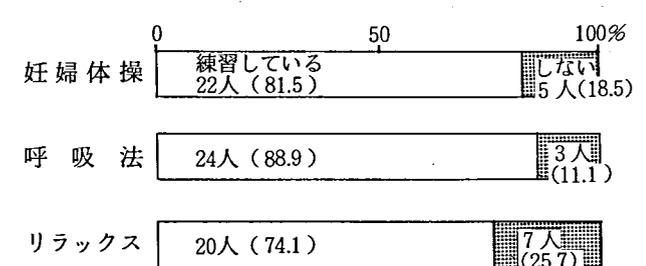
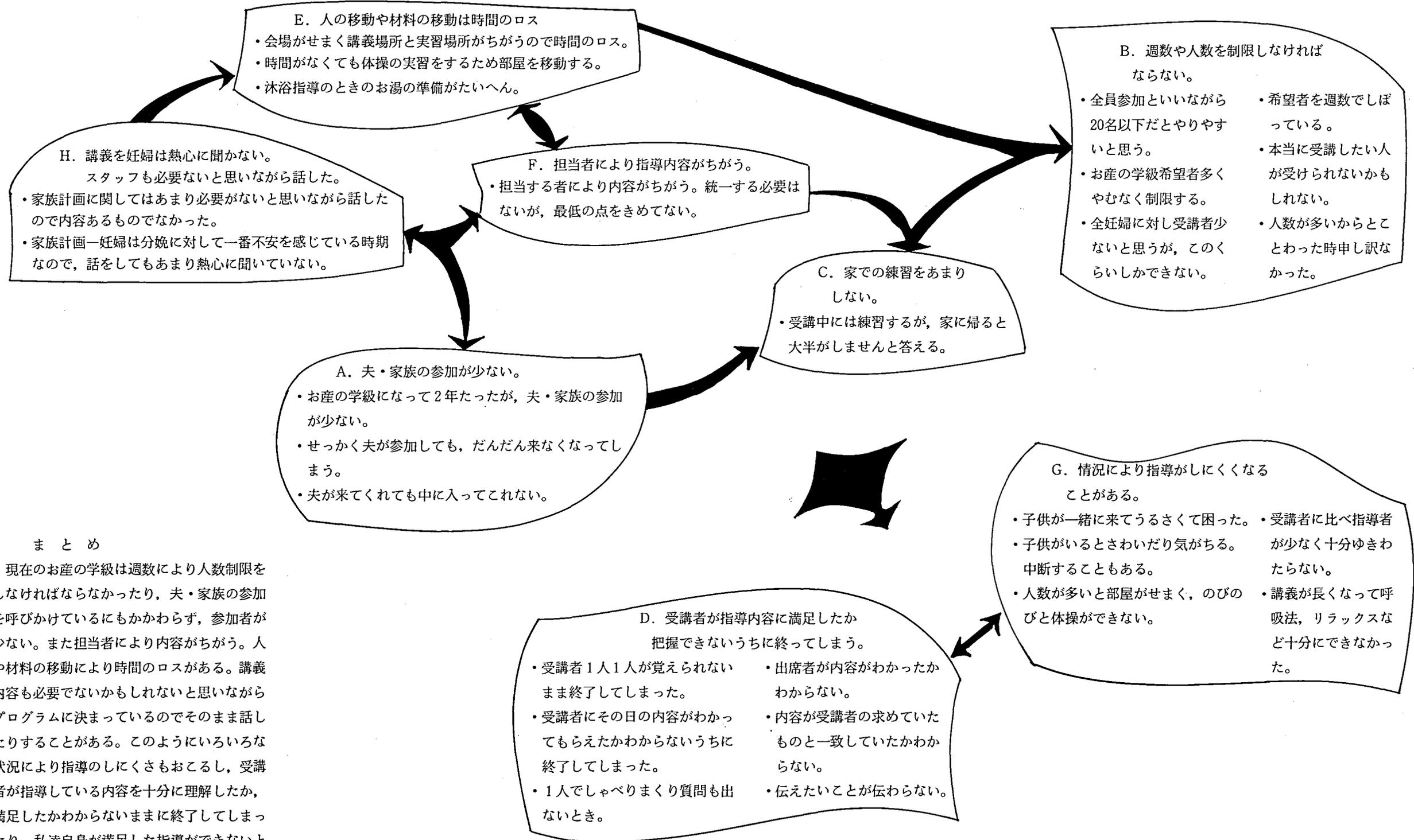


図8 家でラマーズ法を練習しているか



資料2

テーマ：お産の学級でこれは問題だと思った事は何か。



まとめ

現在のお産の学級は週数により人数制限をしなければならなかったり、夫・家族の参加を呼びかけているにもかかわらず、参加者が少ない。また担当者により内容がちがう。人や材料の移動により時間のロスがある。講義内容も必要でないかもしれないと思いつながらプログラムに決まっているのでそのまま話したりすることがある。このようにいろいろな状況により指導のしにくさもおこるし、受講者が指導している内容を十分に理解したか、満足したかわからないままに終了してしまったり、私達自身が満足した指導ができないと感じている。

資料3

図9 母親学級・お産の学級受講者数

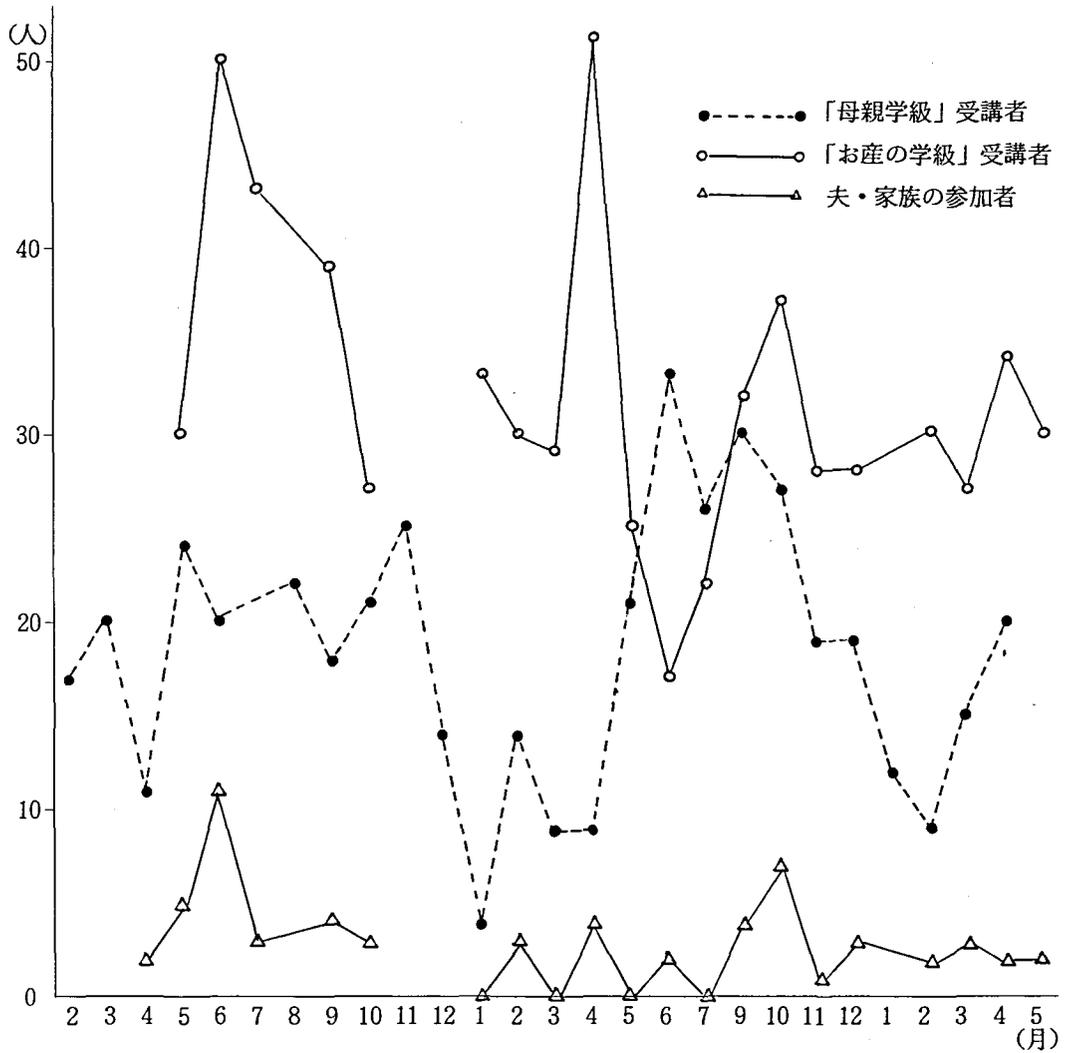


表1 受講率

	受講者数	分娩数	受講率 ($\frac{\text{受講者}}{\text{分娩}}$ 数)	夫家族の 参加者数 (週平均)	夫・家族の参加者 (夫・家族の参加者) 受講者	各学級の 受講者数 (週平均)	学 級
S56	192人	649人	29.9%		4.3%	11.3人	母親学級
S57	211人	631人					
S58 1~4月	56人	649人		0.1人			
S58 5~12月	189人		1.7人				
S59	332人	695人	45.5%	0.9人		22.0人	お産の 学 級

資料 4

表 2 プログラムの変遷

	母 親 学 級		お 産 の 学 級 I		お 産 の 学 級 II	
第 1 週	ラマーズ法の概念 妊娠の生理 日常生活上の摂生	妊婦体操 リラックス法 呼吸法	妊娠中の日常生活 栄養・諸制度 「生命創造」映画	妊婦体操 リラックス法	自己紹介 ラマーズ法の概念 「生命創造」映画 活用できる制度	妊婦体操 正しい姿勢 日常生活へのとり入れ
第 2 週	妊娠中の栄養 妊娠中の異常	リラックス法 呼吸法	らくなお産（ラマーズ法） 分娩の準備と経過 「すばらしきうぶ声」映画	呼吸法	妊娠中の生理・摂生・栄養 乳房の手当 歯の衛生他 分娩・産褥の経過	呼吸法 リラックス法
第 3 週	分娩の経過 分娩の準備 新生児の必要物品	呼吸法	産後の日常生活 赤ちゃんとおふろ (実習)	呼吸法	妊娠中の異常 —医師— 分娩の準備 赤ちゃんの準備 育児	呼吸法 リラックス法
第 4 週	映画 座談会 まとめ 病棟見学	呼吸法	家族計画 座談会 病棟見学	呼吸法	「すばらしきうぶ声」映画 病棟見学 座談会	呼吸法 リラックス法
スタッフ	1 名		2 名			
会 場	産婦人科外来待合室・3階職員研修室（第2）					

表 3 入院中の指導内容

曜 日	内 容
月・木	育児・沐浴
水・土	家族計画
火・金	産 褥
日	補 足